

評価シート集計表

A=4,B=3,C=2,D=1

基本方針 1		総合評価
市民、事業者との連携を強化し、協働による取組みを進めます		B (3.46)
委員	評価	評価理由
委員A	B	いずれの活動も、回数的には充実したものになりました。
委員B	B	さまざまな団体や組織と意欲的につながりを持とうとしている。
委員C	B	実績として達成できなかった項目はあるものの、全体的には取組みが進みつつあると評価できる。
委員D	A	各実施手法については、計画通り進められている。また、近年効果的と考えられるSNS等については、目標の倍以上の発信を行っている。
委員E	A	フードロス対策に対し更に事業者との連携を望みます。
委員F	A	市が立てた目標をほとんどクリアーできている。
委員G	A	1-1-1 【3R学習の充実】取組みには問題ないが、実際に効果があるかどうかの確認方法が必要ではないか。
委員H	B	2023年度目標に比べて実績値は概ね上回っており、取組みは進んでいると評価できる。
委員I	B	目標に対し、実績の回数はかなりの部分で上回っているが、効果が伴っているかという点で多少の疑問がある。
委員J	A	各種イベントや事業所さんとの協働の取組み、学校などへの出前講座等の実施、いろいろ進んでいるようです。引き続きの取組みをお願いします。
委員K	B	継続的な取組みだけでなく、少しずつではあるが新しいことを始めていることは評価できる。
委員L	B	全般的に実績が目標をほぼ上回っている事は評価できる。また、若い世代へのごみ減量意識の向上に関して、中高生への出前講座も評価できる。さらに、大学との連携でも、ごみ減量の啓発に取り組んで下さい。ごみ減量サポーターと3Rリーダーの活動内容を明確にして下さい。
委員M	A	3R、食品ロス削減などの意識の醸成には、日常的に、その言葉（キーワード）に触れる機会が必要である。人的資源や予算に制限があるなかでも、充実した事業展開をしている。

評価シート集計表

A=4,B=3,C=2,D=1

基本方針2		総合評価
家庭系ごみの減量を進めます		B (2.92)
委員	評価	評価理由
委員A	B	全体的に、指標の実績値が伸び悩んでいる印象です。
委員B	B	全体的に前進しているようではあるが今後の進展を期待したい。
委員C	C	食品ロスや生ごみ処理の利用台数、リデュース・リユースの推進などの実績は評価できるが、プラスチックごみの発生抑制やリサイクルの推進に関しては、さらなる工夫と努力が必要であると思われる。
委員D	B	各取組施策は、概ね計画通り進められている。なお、生ごみ、プラスチック対策については、細かな検討が必要と考えられる。
委員E	B	市内状況を観察すると効果的に進んでいるよう感じます。
委員F	B	市が立てた目標をだいたクリアできている。 ジモティーとの連携を高く評価します。
委員G	B	2-3-2 リサイクルの推進 指標、目標値に問題があるわけではないが取り組み経過及び1年の総括でSNS,出前講座の各情報誌の周知方法の検討をする必要があるのではないのでしょうか。
委員H	B	速報値などの資料を見るとごみは減量されていると評価できる。一方でなぜ減量したのかについての理由は別途調査が必要と感じる。
委員I	B	市の評価はかなり高いが、まだまだ工夫するところがある。
委員J	B	環境政策、ごみ収集等、人手不足もあり大変ご苦労されているようですが（私たち市民のごみ捨てのマナーの問題もあると思うが）もう少し強化の取り組みが必要ではないか。
委員K	C	評価のポイントは、補助金の申請件数や市の情報発信回数といった取り組みの数値ではなく、効果が検証できる容器包装プラスチックの分別協力率とした。収集地域を対象にした容器包装プラスチック分別協力率は実績値が目標値を上回ったことから、市の評価は〇となっている。しかし2023年度で33%という目標値自体が低すぎるように思う。たとえば横浜市の容器包装プラスチックの分別率はここ数年60%台、札幌市は59%（令和4年度実績）、目標値では大阪市が60%、さいたま市が50%となっている。
委員L	B	生ごみの発生抑制での「TABETE」の導入やリユースの「おいくら」など、新たな取り組みは評価できる。リサイクルの推進が目標値を達成できていない理由を検証し、対処して下さい。 2026年度より、市全域での容器包装プラスチックの収集・資源化の方針を定めた事は評価できる。
委員M	A	民間企業との連携で、市民のリユース意識の醸成とごみの削減を加速する取り組みは、たいへん期待できる。

評価シート集計表

A=4,B=3,C=2,D=1

基本方針3		総合評価
事業系ごみの減量を進めます		B (2.85)
委員	評価	評価理由
委員A	C	3-1-1と3-1-2では成果が出ていましたが、公共施設からの排出削減が停滞してしまいました。
委員B	B	引き続き公共施設からのごみの削減に努めることが市民や民間事業者の減量意欲を高めることにつながると思う。今後に期待したい。
委員C	C	実績を高く評価できる側面もあるが、事業系ごみの削減に関して、さらなる努力の余地があるように思われる。
委員D	A	各取組施策は、計画通り進められている。指標の目標値と実績値の観点から評価を決定した。
委員E	B	進んでいるとは思いますが、小規模事業者からのヒアリング調査が更に必要だと思います。
委員F	C	多くの項目で目標未達。 事業系ごみの改善に関して特に問題。
委員G	B	3-1-2 優良事例の公表拡大において 取り組みとしては非常に良い。ただし、一度受賞した会社が取り組みを継続、または維持できているかどうかの調査結果の記載がなかった。
委員H	B	長年一生懸命行った取組みが形になっているという印象を受けました。長年やっているからこそ本音のヒアリングが出来ると思うので、事業者にとってどこをどうしたらもっと効果的に出来るのかという意見を集めてより良い施策にしていればと思います。
委員I	B	市の評価はかなり高いが、まだまだ工夫するところがある。
委員J	B	事業所への指導、啓発がまだ足りていない部分があり、もう少しの強化をする必要がある。 不適正排出があまり改善が見られないようですので。
委員K	C	「市による指導や講習の回数」や「表彰した事業者数」、「周知啓発活動の実施回数」といった市の活動は目標を達成したが、「公共施設から排出される事業系ごみの削減率」、「フードバンクに関する情報提供団体数」、「食べきり協力店認定数」といった目標は未達だった。
委員L	B	事業系ごみの適正排出に関する取組は評価できる。また、まちだ3R賞等が事業者周知され、表彰事業者数が増加している事も評価できる。 事業系紙類の減量と共に、資源化の指導を徹底して下さい。また、フードバンクの活用と食べきり協力店が目標値に達しない理由を検証し、対処して下さい。
委員M	A	事業所への指導回数の増加など、業務負担は大きいですが、適正排出を促すためにも重要な業務である。きめ細やかな指導により、不適正排出の抑止力となっている。

評価シート集計表

A=4,B=3,C=2,D=1

基本方針4		総合評価
環境に配慮した資源化施設を整備し、適正かつ安全な処理に努めます		C (2.46)
委員	評価	評価理由
委員A	C	火災により施設が稼働できない状況となってしまったことは残念です。
委員B	B	火災原因がリチウムイオン電池であること、復旧のためには莫大なコストがかかること、ごみの分別の徹底がいかに重要であるかなどをしっかりと市民に伝えることが重要である。
委員C	C	施設の整備、運営という側面については、不測の事態等もあり難しい点もあるが、高い目標に向けて努力をする必要があるだろう。
委員D	C	各取組施策は、目標値未達の事項が多い。
委員E	A	素晴らしい資源化施設の活用に期待しています。
委員F	C	目標未達が多い、改善の道筋が見えてこない。
委員G	B	4-1-1 整備・運営に関し、分別能力を増やすための増員をしたことについて評価したい。
委員H	B	各取組とも短期間で結論や効果が出るものではないと感じるので、新しい施策にチャレンジしながらこのまま頑張っていただきたいです。
委員I	C	施設の未稼働も踏まえ評価を低くした。
委員J	B	2023年11月に発生した火災もあり、計画通りにはいかないと思いますが、まだ改善の余地があると思います。今までの取り組みの検証もすべきでしょう。
委員K	C	「燃やせないごみに含まれる資源化物の選別精度」、「資源化施設の整備」、「収集体制の見直し」などがいずれも計画未達。「資源化物の選別精度」が低いのは、「プラスチックごみの分別の仕方がわかりづらく、市民が間違ったごみの出し方をしていることが選別作業の負担を増していることが理由だ」と考える。またごみの分別に関連して、年間数万個の充電式電池が燃やせないごみ（一部は燃えるごみ）として廃棄されている現状は、人的被害や設備の損傷につながる可能性が高く極めて深刻である。
委員L	C	バイオガス化施設の火災による、目標達成度への影響は来年度以降も続きます。原因を精査し、出来る限りの対策を講じて下さい。 週5日収集及び市全域での容器包装プラスチックの分別収集など、物流に関する課題に対しては事業者の協力も求め、実現に向けたシステムを構築して下さい。
委員M	C	11月に発生した町田市バイオエネルギーセンターの火災原因になっている充電式電池を最優先に除去することが重要である。

評価シート集計表

A=4,B=3,C=2,D=1

基本方針5		総合評価
社会的課題への対応を強化します		B (3.08)
委員	評価	評価理由
委員A	B	概ね計画通り検討作業等に取り組めていると評価できます。
委員B	A	ほぼ目標に達成しているため。
委員C	B	全体的に適切に取り組みが進んでおり評価できる。今後は検討結果を実施したり、成果を出していく必要がある。
委員D	B	各取組施策は、概ね計画通り進められている。5-1災害廃棄物関連は◎でも良い内容と考える。高齢者対応はもう少し努力が必要と考える。
委員E	B	全国の課題対策・取り組み事例の調査研究を進めることを希望します。
委員F	B	市が立てた目標をほとんどクリアーできている。
委員G	B	5-1-1、5-1-2 災害時等のゴミ処理に関し、町田市災害廃棄物処理計画があるが、この内容について協定締結会社との共有ができていないのではないのでしょうか。
委員H	B	情報共有や社会情勢の影響の見極め時期などもありますが、各取組で前に進めようとされているのは評価できる。
委員I	B	全体にいえることだが、個別の評価がかなり違うものを一つの評価で行うのはかなり難しい。かなりCに近いBとした。
委員J	B	災害時の対応、またこれからますます高齢化社会になりますますごみの分別・回収など問題が増えてきています。今以上の対応が求められていると思う。
委員K	B	「高齢者に対応した収集体制の検討」について進展がないことを除く、他の項目について概ね目標を達成できたことは評価できる。
委員L	B	災害廃棄物の処理に関する仮置き場の設置や訓練の実施は評価できるが、地域毎にごみの種類や量を想定する必要がある。 高齢者に対応した収集体制の検討は、収集体制の見直しの一環となるので、全体として実現可能な体制を構築する必要がある。
委員M	B	パトロールや美化活動など、市民とともに取り組む事業は、市民の目もあり、違法業者や持ち去りなどの抑止力になる。